



辺野古の海を壊すな！

「島ぐるみ会議」と神奈川 を結ぶ会・ニュース

2015年10月31日 創刊号

発行 島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会

代表世話人 仲宗根保・高梨晃嘉

連絡 090-7402-5245 檜鼻

090-4822-4798 深沢

— [発刊の辞] 沖縄の声に向き合い神奈川からどう応答するのか(代表世話人：高梨晃嘉) —

沖縄県民の民意を無視して暴力的に進められている辺野古新基地建設。沖縄県民はどのような思いと考えにより、暴力に対峙しかくも粘り強く基地建設阻止のたたかいを続けることができているのだろうか。振りかえれば、沖縄は、基地問題に限らず、沖縄自らの課題として、自由、平等、民主主義、平和、人権、安全保障について、さらに米国とアジア、沖縄と日本と言った歴史認識問題について「本土」に向けてこうした「問い」を発信し続けてきたことに遅まきながら気づく。翁長知事の国連人権理事会での演説は、あらためて「本土」に、そしてさらに世界に向けてこれまでの沖縄からの「問い」を端的に示した。そればかりか沖縄の問いに容易に応えようとはしてこなかった「本土」の私たちの姿勢についても点検を要請していると受け止めたい。

安保関連法制が国民の反対を無視して強行され、沖縄の軍事要塞化がより一層現実として可視化されつつある今日、私たちはあらためて沖縄からの「問い」に向き合い、「本土」神奈川からの応答に取り組んで行きたい。

政府・防衛省は翁長知事の辺野古埋立承認取消処分に従え！

10月13日の翁長知事による埋立承認取消で、沖縄防衛局は全ての作業中断を余儀なくされました。しかし翌日の14日に行政不服審査法を使って同じ内閣の国交相に審査請求と執行停止を申し立てました。国民の権利保護を目的とした法の趣旨を捻じ曲げた茶番劇に、日弁連会長声明、行政法研究者93名の声明など専門家の間でも疑問の声が広がっています。にも関わらず国交相は27日に取消処分執行停止を決定。なおかつ知事権限を剥奪するための代執行手続きに着手することを閣議決定。29日には抗議する市民を暴力的に排除して辺野古の海と陸の作業を再開しました。沖縄の民意を踏みにじり、法治国家の建前もかなぐり捨てた暴挙です。

神奈川からもっともっと声を上げていきましょう！「結ぶ会」の12.3講演集会に多くの参加を！

辺野古の海を埋立てるな！講演集会

12月3日(木) 18時 開場
講演 「国際人権法から見た沖縄の自己決定権」
講師 阿部浩己さん(神奈川大学)
辺野古の映像・現地闘争報告など
会場：横浜市開港記念会館6号室

全国県人会交流集会に参加して



10月3日、東京新橋の第一ホテルで全国沖縄県人会交流会が開かれ、翁長知事が出席。翁長知事は「政府と摩擦が生じるが頑張り抜く」と力強い決意表明をしたが、「地元沖縄だけでいくら声を挙げて頑張っても、県外からの応援も無ければ政府になかなか響かない」と訴えていました。(仲宗根保)

環境監視等委員に業者から寄付

沖縄防衛局が設置した環境監視等委員会の委員13人のうち、委員長の中村由行横浜国大大学院教授ら4人が、受注業者から金銭を受け取っていた事実を朝日新聞がスクープ。受注業者「いであ」(本社東京)は委員会の運営業務も受注。同委員会は仲井真前知事の埋立承認の際の環境保全を担保するために設置されたもので、公平性・中立性を疑わせる事態に。30日の参議院会館内における環境団体との交渉で、防衛省は「報道を受けて調査したが、金銭授受は通常の産学連携活動の一環であ

り、問題ない。『いであ』の業務は事務局である沖縄防衛局の運営業務の補助」とし委員会運営への影響を否定しながら「報道で疑念を持たれた以上、改善したい」として「防衛局の運営業務に、受注業者は関与させない。今回受注していたコンサルタント会社『いであ』は契約を解除する。委員への寄付についてもルール作りをしたい。」と答弁。「問題ないというが、委員会の議事録を公開しなければ確認しようがない。なぜ公開しないのか」の追及には「議事概要を公開している」と言うだけで、「議事は非公開と委員会で決めている」と運営主体である防衛局の責任逃れに終始。前知事が承認の条件とした県との「事前協議」も防衛省は無視しようとしており、環境保全への配慮は全く見られません。

29日から沖縄防衛局は辺野古で作業を再開。ゲートでは資材搬入を阻止しようと多くの市民が座込み。写真は86歳の島袋文子さん(琉球新報から)。機動隊に暴力的に排除されています。

沖縄戦体験者の文子さんの願いは、沖縄を再び戦場にさせないことです。



報告：8.21 神奈川集会

辺野古の闘いを全国に広げよう！という「沖縄『建白書』を実現し未来を拓く島ぐるみ会議（略称：島ぐるみ会議）」の呼びかけに応えようと結成された「島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会」（以下「結ぶ会」）のスタートは、8月21日に開かれた「島ぐるみ会議全国キャラバン I N神奈川～沖縄は辺野古新基地を拒否する！」の集会。「結ぶ会」と神奈川平和運動センターの共催で、会場となった神奈川県民センターホールが満席、260人の参加があり、大盛況。辺野古闘争支援カンパも13万円超集まりました。終了後の懇親会も30名以上が参加し、交流を深めました。



辺野古の映像が上映された後、主催者を代表して、二人から挨拶。「結ぶ会」世話人であり、鶴見沖縄県人会の仲宗根保さんは、45年前にコザ市（現在の沖縄市）安慶田で青年会長をしていた時にコザ暴動に遭遇した体験を語りました。



米兵が強姦事件や交通事故を起こしても逮捕もされずに米国に帰国してしまうことが重なって、

米軍に対する沖縄の人々の怒りが充満していた。コザ暴動を境に、沖縄の人々の考え方がガラリと変わった。翁長知事と私は同年代だが、米兵の事件・事故への抗議集会にはいつも参加してきた。普天間基地は危険だから辺野古は仕方がない、などと言うヤマトの人がいる。しかし、知事も言うように普天間は米軍に強奪された基地だ。それを認めた日本政府も 同罪。辺野古に基地を作らせてしまったら永遠に残ってしまう。これは体を張っても阻止しなければいけない。ぜひひきょうの集会に参加されたみなさんが、沖縄の現状、沖縄の人々の思いを他の人にも伝えていただいて、仲間を増やしてもらいたい。

神奈川平和運動センター・事務局長の小原慎一さんは、第二の基地県神奈川から沖縄の闘いに応える闘いの重要性を強調しました。

沖縄からの訴えは、島ぐるみ会議の平良識子（たいらさとこ）さん。平良さんは那覇市議会議員ですが、学生時代から「琉球弧の先住民族会」AIPR のメンバーとして「琉球/沖縄の自己決定権の回復」を国連人権機関等に訴えてきました。現在の沖縄では、辺野古でも地元の新聞でも「自己決定権の確立」が語られていますが、AIPR の若者たちの活動はその先駆け。



建白書」の柱は
①オスプレイの配備撤回②普天間基地の即時閉鎖・返還③県内移設の断念。

2013年1月

28日に安倍総理大臣に提出された。この『建白書』は沖縄の歴史において特筆すべきもの。県下41全市町村の首長と議長が署名し、労働組合、市民団体含めて『オール沖縄』で共有化された。しかしその年の11月、自民党選出の参議院議員と衆議院議員5名が「県内移設反対」の公約を翻して移設を受け入れると表明、年末に仲井真前知事が埋立てを承認してしまった。そこから『建白書』に再結集するという取組が始まり、昨年7月27日、「島ぐるみ会議」が結成された。1500人の会場に3,000人が集まった！日常的な取り組みとして、バスをチャーターして沖縄各地から辺野古の現場に人を送る「辺野古バス」を運行してきた。また全国都道府県全てに沖縄の声を伝えていく全国キャラバン、米国に対する働きかけ、国連への要請などに取り組んでいる。

島ぐるみ会議が目指すのは、第一に『建白書』の実現であり、未来を拓く沖縄の自己決定権の回復。第二の緊急・喫緊の課題として辺野古の工事の中止。沖縄の問題は日本の問題。『島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会』のような繋がりあいを全国に広げたい。安保関連法案反対運動と辺野古新基地反対運動をリンクさせて、日本の政治を変えていく、多様性のある、広がりのある取り組みを共に進めたい。

続いて5月末から6月初めにか

けての沖縄の訪米要請団をアシストした新外交イニシアティブ事務局長の猿田佐世（さるたさよ）弁護士が報告しました。



NGO を結成したきっかけは、民主党の鳩山政権時代の「最低でも県外移設」の公約が破綻したこと。その当

時は鳩山首相の発言を米政府に届ける人が誰もいなかった。「ジャパン・ハンドラズ」と言われる一部の米国人の発言に左右されているのが日本外交の現状。日本のことに関心を持っている米国人は少ない。ほんのひと握りの人間が対日政策を決めている。沖縄の問題はほとんど知らなくても、例えば女性の問題に熱心な女性議員はたくさんいる。環境問題に命をかけている人もたくさんいる。財政難で軍事予算の削減に関心のある保守派の議員もいる。いろんな視点で沖縄の問題を訴えた。その延長が、今年5月の沖縄の訪米行動のアシスト。合計55人、下院議員15人、上院補佐官7人、下院補佐官23人に会うことが出来た。今回の訪米の意義は二つある。ひとつは知事が交代して、新知事が『辺野古は絶対に基地は造らせない』と言っている事実を伝えたことが重要。もう一つは、ワシントンに働きかける環境整備の第一歩になったこと。今後も、沖縄県のワシントン事務所と連携し、米国を変えることで日本政府に打撃を与えたい。

続いて辺野古抗議船船長の吉田滋さん、沖縄・一坪反戦地主会共同代表の外間三枝子さんからアピール。外間さんがアピールした9.12国会包囲行動は、東京の行動としては過去最大規模の22000人が集まり大成功でした。

最後に島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会の世話人の日下景子神奈川県議会議員から閉会挨拶。



私たちは戦争の悲惨さを、若い人たちにもっともっと伝えていきたい。基地を抱える神奈川県民こそ、辺野

古の基地建設に反対している沖縄の人々とつながっていききたい。